

第 3 6 回

宮 沢 賢 治 賞
イーハトーブ賞

選 考 宮沢賢治学会イーハトーブセンター

第36回宮沢賢治賞・イーハトーブ賞について

《宮沢賢治賞》

該当なし

《宮沢賢治賞奨励賞》

該当なし

《イーハトーブ賞》

20歳の若者たちが中心となって始めた、60年にわたる演劇活動の中で、225回に及ぶ「セロ弾きのゴーシュ」公演を通して演劇の本質を追求し続けるとともに、教育、地域活性化に及ぶ活動全体が賢治文学の普及・研究活動に貢献してきた業績に対して。

げきだん
劇団 あしぶえ 様

《イーハトーブ賞奨励賞》

該当なし

選考経過および理由について

宮沢賢治学会イーハトーブセンター

賞選考委員長 信時 哲郎

《宮沢賢治賞》

選考対象は6件。2件が第2次選考に残ったが、本賞および奨励賞に該当する候補の選出はなかった。

《イーハトーブ賞》

選考対象は9件。8件が第2次選考に残り、1件が本賞候補に選出された。奨励賞の該当はなかった。

本賞の劇団あしぶえは、1966（昭和41）年に20歳を筆頭とする若者たち数名が「松江演劇同好グループ」を結成したことからスタート。1989（平成1）年から37年間にわたって「ゼロ弾きのゴーシュ」の演劇を上演し（上演回数225回）、賢治の精神を、演劇を通して追求し、それを世に広める活動を続けている。1995（平成7）年には「しいの実シアター」を設立、2000（平成12）年には劇団公演の傍ら「しいの実シアター未来学校」の活動において、演劇を通して子どもの想像力を育成する取り組みを開始。2005（平成17）年にはNPO法人あしぶえが認可され、2013（平成25）年には認定NPO法人となっている。

これらの活動は賢治作品の普及のみでなく、賢治の学校教育における演劇活動にも通じるものであると言えることからイーハトーブ賞本賞を贈呈するにふさわしい。

宮沢賢治学会イーハトーブセンター委員会構成

委員会等	氏 名	都道府県	備 考
参与	栗原 敦	東京	
代表理事	青木 美保	広島	
副代表理事(企画委員会)	中地 文	宮城	
副代表理事(賞選考委員会)	信時 哲郎	兵庫	
企画委員会(50 音順)	阿部 紀子	岩手	
	岡田 浩行	岩手	
	柏葉 公平	岩手	
	北山 公路	岩手	
	田嶋 彩香	千葉	
	◎中地 文	宮城	
	中野 由貴	兵庫	
	向山 三樹	山梨	
賞選考委員会 (50 音順)	大塚 常樹	東京	
	佐々木勝也	岩手	
	高橋智恵子	岩手	
	◎信時 哲郎	兵庫	
	牧 千夏	奈良	
	村上 英一	千葉	
編集委員会 (50 音順)	遠藤 純	兵庫	
	構 大樹	徳島	
	鈴木 健司	埼玉	
	坪谷 卓浩	東京	
	◎富山 英俊	東京	
職で充てる理事 (選任外)	生涯学習部長		すべての委員会に 出席できる理事
	宮沢賢治記念館長		
	宮沢賢治イーハトーブ館長 (学会代表理事)		
監事	平賀 陽一郎	岩手	
	嶋 勝正	岩手	

◎：委員長

イーハトーブ賞 劇団 あしぶえ（げきだん あしぶえ） 様

1966年創設 島根県松江市

【活動歴】

1985年 9月	劇団員による劇場建設の積立を開始し、以後10年7ヶ月127回継続。
1986年 4月	「ブレーメンの音楽隊」広島公演で200万の黒字により「50人劇場」を造る。以後、「演劇を人々の暮らしの中へ」の活動が本格的にスタート。
1989年12月	50人劇場で「ゼロ弾きのゴーシュ」1年間46ステージのロングラン公演開始。翌年11月達成し、日本アマチュア演劇史上初となる。
1995年 7月	島根県八雲村に日本初公設民営劇場「しいの実シアター」完成
2000年 3月	小・中学校等に出掛け「表現・コミュニケーション力育成事業」開始。受講者が2026年3月までで5万人突破。
2001年11月	「八雲国際演劇祭」（現・「松江・森の演劇祭」）開催。以後、3年に1回開催。
2005年12月	NPO法人化し、セミプロ集団となる。
2026年 6月	「ゼロ弾きのゴーシュ」しいの実シアターで上演225回を数えた。

【業績等】

1993年 2月 島根県「島根県文化奨励賞」

1994年 6月 「アメリカ国際演劇祭」で「ゼロ弾きのゴーシュ」第一席、演出賞、舞台美術賞

1994年11月 文部省「地域文化功労者文部大臣表彰」

1995年11月 中国新聞社「中国文化賞」

1997年 7月 サントリー文化財団「サントリー地域文化賞」

1998年 5月 「カナダ・リバプール国際演劇祭」で「ゼロ弾きのゴーシュ」観客が選ぶ作品賞

2003年 1月 国際交流基金「地域交流振興賞」（現・地球市民賞）

2003年 7月 「世界演劇会議とフェスティバル」で「ゼロ弾きのゴーシュ」視覚的舞台表現最優秀賞

2019年11月 在ブルガリア日本大使館の招待により、ソフィア、ブルガスで「ゼロ弾きのゴーシュ」を日本語6割ブルガリア語4割で上演。

